



営農ウィークリーNEWS

2023年度京おくら出荷目合わせ会



6月20日（火）本店で、栽培技術の向上や生産者相互の交流、出荷規格の統一を図ることを目的として、「京おくら」の目合わせ会を開催しました。

当日は、生産者のほか関係者46人が参加し、目合わせ会終了後は、封入するシビに記載された「京おくら」のピクルスなど試食会も行いました。



京都青果合同株式会社 京野菜部
係長 安田康二 氏



京都南部青果株式会社 近郷野菜部
課長 東陽一 氏



全農京都農畜産部 園芸課
課長 南裏英樹 氏

出荷目合わせ会では、京都青果合同株式会社、京都南部青果株式会社より出荷調製時の注意点の説明があり、全農京都 園芸課から販売情勢の報告がありました。

出荷規格の確認では、生産者同士や販売元との情報交換が活発に行われ、京おくらの販売拡大に向け白熱した議論が交わされていました！



京都乙訓農業改良普及センターからは今後の肥培管理や病害虫について報告があり、葉枯細菌病・ワタアブラムシなどが発生している現状を生産者と共有しました。併せて農薬メーカーからも、最新の殺虫剤（グレースシア乳剤）と殺菌剤（クプロシールド）の紹介が行われました。



また、昨年に引き続き、京都市、全農京都府本部、JAと株式会社ミツカンとの事業連携による取組を展開しており、目合わせ会と合わせて、2023年度事業の説明を受けました。封入するレシピに記載された「京おくら」のピクルスなど試食会も行われ、生産者との相互理解を深めました。



株式会社Mizkan 営業企画部
営業企画3課 パルサク 祐美子 氏



※「もったい菜漬け」リーフレットより抜粋

—TAC information—

北部・久多巡回



6月16日、京都市の最北端地域となる左京区久多地域で2022年から新たに栽培を開始した京都限定の酒造用原料米「京の輝き」栽培ほ場で生育調査を行いました。2023年産の「京の輝き」は、1.3ヘクタールを作付し、昨年より50アールが面積拡大しています。

